

月山肘折温泉ルート 山行報告



山行日：平成 29 年 4 月 16 日（日）

天候：晴・上部強風

登山方法：山スキー

メンバー：CL 会員外 会員外 2 名（S・K） 薄井（記録）

行動時間：月山スキー場リフト下駅 8:15-月山山頂 10:30-清川橋 11:35-念仏ヶ原避難小屋 12:43-大森山山頂 15:40 - 肘折温泉 16:32

肘折温泉コースは月山の登山コースの中でも最長で、山頂から肘折までも 20 km を超えるそうだ。念仏ヶ原の避難小屋一泊が通常メニューのところを日帰りで行けるため、朝 8 時発午後 5 時半着という長丁場のコースタイムが設定されている。今日のメンバーは 4 人。三十代から五十代と比較的若く、体力も技術もある。不安要素があるとすれば、20m 強の強風予想と私の滑走技術不足ということになりそうである。

志津には夜間通行止めのゲートが開く朝 7 時の 15 分ほど前に到着した。外へ出てみると天気は悪くないのだがやはり風が強い。

姥沢の月山スキー場で車を降りると、リーダーは車を下ろすために再び志津へ。今日下山する肘折から戻る時間には再びゲートが閉まっているため、車を上には置いておけない。ヒッチハイクか、今日来る予定の知り合いに乗せてもらって戻ってくると言い残して去って行った。

リフトの運行開始は朝 8 時なので、リーダーを待ちつつ身支度。予想外に早く戻ってき

たリーダーは、うまくヒッチハイクに成功したらしい。



リフトを降り、少し登ったところでスキーを履く。広大な白い蟻地獄のような雪の斜面がうねうねと広がっている。牛首手前から少し右に回り込みながらシール登高。途中でスキーアイゼンをつける。

谷間ではいくらかましだった風が、稜線に出ると歩くのも困難なほど激しくなった。風が飛ばしてくる雪か、小石のようなものがバチバチと頬にあたって痛い。ここまで長時間、

こんな爆風にさらされ続けた経験はたぶん初めてだ。しかしこのリーダーに撤退の選択肢はないだろうし、そもそも山を越えないと帰れない。ただ一刻も早く下り始めたいと思うばかりだ。

頂上小屋の屋根が少し出ており、その陰で一息ついた。ガスに包まれて視界はなく、ただもう「山頂を踏んだ」というだけ。風をよけながら行動食を取り、滑降の準備をする。このコースは4回目になるリーダーの経験とGPSを頼りに方向を定め、滑り始めた。

ガスは濃く、ほんの少し先に行くリーダーの姿がたちまち見えなくなる。どうやら広大なオープンバーンらしいのだが、残念ながら見失わないように転ばないように遅れないように必死で、楽しむ余裕は全くない。

高度を下げ、千本桜付近まで来てようやくガスが切れ始めた。これから行く、アップダウンの豊富な稜線が延々と続いているのが見える。



千本桜からは登山道をなぞる稜線コースが一般的なところ、クラックを越えていきなり立谷沢川へと滑り込むルートを取った。覗き込む先にリーダーの姿がたちまち小さくなる。ヘルメットをかぶり「大きくターンすれば大丈夫」とSさんにアドバイスをもらい、ワンターンずつゆっくりと滑り降りた。リーダーは「スピード感が足りない」などと言ってどんどん先へ行ってしまおうので、休む間もなく後を追いかける。

沢沿いに進むと、清川橋に出た。橋には雪が積もっていたが、下部が見えて沢には水が流れている。その先の雪がつながった場所を渡り、念仏ヶ原へ上がる前に昼休憩とした。

つかの間うらうらとした春スキーの雰囲気。今日もよく日焼けしそうだ。

休憩を終え登り上げた念仏ヶ原は、奇跡のように広い平面だった。一見近そうなのに歩いて向こう側が一向に近づいて来ない。これは、と唐突に天安門広場を思い出す。

避難小屋は屋根が見えていた。小屋の裏から小岳へ続く稜線を辿る。右手には葉山が見える。ここは厳冬期のパウダーと、麓の肉そばなる名物の組み合わせがいいらしい。西側に遠くなった月山は、依然として山頂に雲がかかり、ここまできて風はまだ強い。

小岳手前の偽ピークを越え、派手にクラックの入った小岳に登る。山頂でシールをはがし、しばらく緩やかな下りルートを進んだ。



再度シールを張り、猫又沢へ向かう。猫又沢へはトラバースルートがあるらしいのだが、リーダー曰く「あえてその前のピークを登り返して猫又沢源頭を滑る」という M なるルート設定とのこと。谷は、またこんな…と愚痴を言いたくなるほど落ち込んでいる。スピーディーに滑り降りるメンバーを尻目に少しスタート地点の高度を下げ、意を決して滑り落ちる。ついに最後の登り返しとなる大森山が見えてきた。

青い水をたたえた池を左下に見ながらトラバースし、大森山への最後の登りはシールではなくツボ足。この期に及んで板を担いでのツボ足登高だが、この期に及んでも登りならまだいける。ただ、もう滑りたくない。

大森山山頂で最後の休憩をとり、林間をトラバースしながら高度を下げる。林道に滑り込んだらしばらく平坦な道のりを歩き、途中からショートカットして最後のツリーラン。無事、車のデポ地点に到着した。予定より1時間早い午後4時半だった。

肘折温泉の日帰り入浴施設で汗を流し、途中で夕食を取って山形新幹線「さくらんぼ東根駅」まで送ってもらい、最終の「つばさ」を待った。他のメンバーは、これから車を取りに月山まで戻るのだ。

リーダーの記録はこちら

http://ftk-ac.net/05_ski/2017_ski/5525_hiji/5525_hiji.html